

平成14年2月25日(月)

県立こども医療センター重症心身障害児施設長



山田美智子先生の講演会より



肢体不自由養護学校の医療的ケアの状況、重症心身障害児施設のベット数などの資料を元に現状を伺う。

現在こども医療センター重症心身障害児施設は、全部で40床（横浜、川崎、神奈川で配分）基本的には19歳からは適応外となる。

『最近、レスパイト的に短期で使うケースが増え、昨年度はのべ200人となったとの事、若いお母さんも上手に骨休めしつつ介護にあたれば、...』

重い障害をもっていても医療的なケアが常時必要な人でなければ、地域の中でグループホームで暮らすことが一番いいと思います。でも、それも難しい医療的ケアを要する重い障害をもった人には、ぜひ終の住処となるような暖かく、より自然な形で生涯をまっとうできる様な施設が欲しいです。』と「よつばホーム」の試みを励ましてくださいました。

参加した人達は、「私たちと、考え方が同じ感じ。重度ゆえに難しがたいが、子の事を思えば、離す練習もしなくては、...」

「親としては、頭の中ではちゃんと分かっているのだけど、...。いずれは、...。と思いつつ、なかなか現実につながっていかない。逃げ出す訳にはいかないのだけど」と、まだ複雑な子離れの心境を語ってくれる人もありました。

「よつば」との出会いは、「しもだ」が開所して間もなくの、民生委員のボランティアとして参加した時ですから、もう10年余りになります。

障害者に対してのお手伝いは初めてでしたので、心配しながらの参加でした。運動や食事の介助をしたり、車椅子での直道の散歩、緊張しながらの散歩も、皆の笑顔にほっと、ほぐれたものでした。それから、近くの公園での野球、バットに手を添えて、「走れ、走れ」の職員の声に、車椅子を押して塁まで走ったこと、これはきつかったですね。また、バザーに出品するエプロンも30枚位引き受け夜なべで縫った事も思い出されます。

今はとても民生委員の仕事が忙しくなり、行事に参加するだけで、直接に所員の方達と接することが少なくなり申し訳なく思っています。

「よつばホーム」の出発も素晴らしいことでした。これから第2第3のホームを目指して活動していらっしゃると思います。14年度は、市でも障害者支援の方向と聞いています。私も、微力ながら何かのお手伝いができればと考えています。

岩崎 千恵（顧問）

たわわ



地域で生きる障害者を支える会通信

新2002年2月28日

20号

「地域で生きる障害者を支える会」報

住所：横浜市港北区下町6-31-8

活動ホーム（しもだ）内

TEL045-562-3600

FAX045-562-5991

障害者が安心して暮らすために

グループホームに必要なだけの予算を！

よい香りにふと足を止めると、しだれ梅が満開、ふくいくと薫る春の訪れに心が和んでいきます。

春といえば、次年度の予算が気になる季節、いろいろと出してきた要望が、どこまで聞き届けられるのか、...。ことに、平成15年の改革を前にして福祉の現場もいろいろな動きや議論があります。

横浜市でも、平成14年度の予算が提示されましたが、横浜市の全体予算が前年比で3.6%減、福祉予算は2.9%の増額で終わりました。厳しい中の伸びなので、努力しているという見方もありますが、増額分はほとんどが、新規の事業に付ける予算で、「今度は、...。」と期待されていたグループホームについては、全く増額となりません。

横浜市では、「191か所から219か所に増える見込みで、18か所分の設置費を確保するのが精一杯だった。」ということなのです。これはグループホームを運営している人達だけでなく、私たちにとっても、少なからずのショックです。

少なくとも先進国といわれるところでは、施設を廃止し障害者も地域の中で生きるべきだという方向で動いています。この横浜でも多くのグループホームが生まれているとはいえ、まさに住み暮らすというもっとも根源的なところでの福祉の充実がなければ、安心して地域の中で生きていくことはできません。そして、100人1様ではなく、重い障害のある人には、それなりのニーズに合わせた支援が考えられ保証されることが必要です。

「支える会」でも、よつばホームでの実践を通し、重い障害者の地域生活の在り方を考え、理解していただくように活動をしたいと思っています。



この前 相模原の友人から ユーパックが来ました。
なんだろうと ビックリして開けると B4の紙を分厚く 103枚ホチキ
スで 止めたものでした。

昔の「仲間作りのグループ」のお金が 余っていたので
「皆で 交代に書いた 10年間の「お知らせ」を冊子にまとめて、
仲間に送ることにした」と書いて ありました。

この会は 12、3 年前 私が七沢のリハセンターにいたころ出来
た会で、いろいろな 人がいて 遊んだり 意見交換をしたりイベ
ントもしたり 楽しい会でした。

会員は いろいろな所に住んでいて、厚木でやるが多かった
ので、私は 始めのうちは あまり行けませんでした。そのうち
に予定が重ならなければならぬと毎月出るようになりました。

会員の人たちが 忙しくなってだんだん 少しになってしまいま
したが、私は 最後の 4 人になるまで毎月行っていたグループで、
みんなに引っ張ってもらったり、教えてもらいました。

私たちは もっと続けたかったのですが、メンバーの一人がぐあい
が悪くなったのを きっかけに なんとなくつぶれてしまいました。

私たちが 何かを続けて行こうとしても 自分の気持ちだけでは
できないこともありますね！

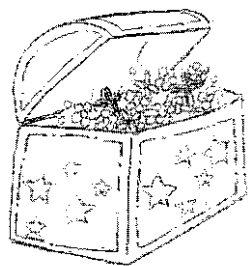
今 少し寂しい気持ちで 思いだしました。

でもこれを送って来てくれた 池田まり子さんはもうすぐ 2 人め
の子供が出来て 幸せですが、「10年間の記録を見て、この時の仲
間作りのグループは 私にとって 20代の青春が詰まった宝箱という
感じがしている」と書いてあります。

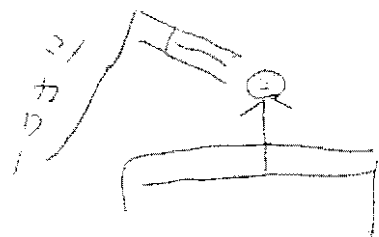
受け取った皆もそういう気持ちで 思いだしていると思います。

私も同じ気持ちです。 皆に手伝ってもらいながら これから
いろいろな人との出会いを大切にしていきたいとおもいます。

大原友子



会員入会状況(平成14年2月25日現在)	
☆会員	24名
☆賛助会員(黙)	135名
☆ " (醒)	4団体
入会者紹介(賛助・賛助 婦人部)	
[賛助] 手塚 和夫	



絵 堀江文子

今月のよつばホーム

1月の末から2月にかけてよつばホームでは、うれしくないこと
に風邪が流行ってしまい入居者、職員共にダウンしてしまいました。
職員が同時に2人倒れてしまったこともあり、仕方なく3日間
よつばホームを閉鎖する事になってしまいました。今後、この様な
ことの無いように万全の人手を早く揃えなければならない事を実
感した月でした。

今月は、よつばホームがオープンした時から調理ボランティアと
して携わって頂いている「野口 儀子」さん より原稿を頂きました。

よつばホームがオープンして、はや4ヶ月。調理のお手伝いを週
2回、火曜・金曜にさせて頂いています。

キッチンはとても使いやすく、またカウンター越しに入居者の人
始め、皆さんの顔を見ながら楽しく調理をしています。

皆さんとても明るくて気持ちのやさしい方達ばかりで、毎回よつ
ばホームに行くのがとても楽しみです。

これからも一生懸命がんばって行きたいと思っております。

※野口さんには調理ボランティアとしてだけではなく、ホームヘル
パーとしても手伝って頂いています。

お知らせ
支える会とグループホーム主催で

地域交流 ミ ニバザー を

下記のように予定しています。

日時 3月25日(日) 10:30~14:00

場所 グループホーム「よつばホーム」駐車場

(横浜市港北区新吉田町5623-1)

連絡先 ☎045-591-7040 (受付はPM8:00まで)

募集しています

不用品の提供(取りに伺います)

当日のバザーの手伝い

障害をもつメンバーと

一緒に過ごして下さい

お漬物 五目ご飯 衣料

会員更新についてのお願

今年度1年間、支える会の活動にご理解をいただき、また、ご参加いただいたこと

を心より感謝申し上げます。引き続き、会員としてのご参加をお待ち申し上げます。

近々ご案内を差し上げることができると幸いです。よろしくお願い致します。